



いつも新しい流れがある 市川

令和6年9月25日

報道関係者 各位

市川市 文化国際部長 高橋昭彦

令和6年度市川市文学ミュージアム企画展

プレス向け内覧会及び観覧のご案内

このたび、市川市文学ミュージアムでは「生誕120年記念 幸田文展-千年の藤のように生きる-」を開催いたします。

明治を代表する文豪・幸田露伴の次女として生まれ、随筆・小説・ルポルタージュなど、多彩な分野で活躍した作家・幸田文の生涯を、自筆原稿や愛用品などとともに辿ります。

プレス向け内覧会または一般公開期間中に、ご高覧いただければ幸いです。

記

1. 日時 ①プレス向け内覧会 令和6年10月25日(金) 13:30~16:00

担当学芸員による個別取材対応、展示室内撮影対応

※ご出席いただける場合は、10月24日(木)までにファクスまたはメールにてご連絡くださいますよう、お願い申し上げます。

②一般公開期間 令和6年10月26日(土)~令和6年12月22日(日)

2. 場所 市川市文学ミュージアム(市川市生涯学習センター2階)
企画展示室

※2階のエレベーター前で受付後、取材対応いたします。

(問い合わせ)

文化国際部 文化施設課 文学ミュージアム

益子 ゆらぎ

TEL 047-320-3334

FAX 047-320-3356

メール bungaku-museum@city.ichikawa.lg.jp

市制施行 90 周年/生誕 120 年記念 幸田文展 -千年の藤のように生きる-



展覧会名 市制施行 90 周年/生誕 120 年記念 幸田文展 -千年の藤のように生きる-

会 期 令和 6 年 10 月 26 日(土)～12 月 22 日(日)

会 場 市川市文学ミュージアム企画展示室

開館時間 平日 10:00～19:30 土日祝 10:00～18:00

※入室は閉館時間の 30 分前まで

休 館 日 月曜日(11 月 4 日は開館)、10 月 31 日、11 月 5 日、11 月 29 日

観 覧 料 一般 500 円、65 歳以上 400 円、高大生 250 円、中学生以下無料

※団体割引あり、障害者手帳をお持ちの方と付添の方 1 名無料

主 催 市川市

協 力 青木奈緒氏、世田谷文学館ほか

展示構成

◆第一章 幸田家に生まれて

明治時代を代表する文豪・幸田露伴の次女として生まれた幸田文。幼い頃に母を亡くし、料理・掃除・洗濯など、あらゆる家の技量を父から教え込まれた文は、文学とはかけ離れた一家庭人として半生を過ごします。本章では、家事への心がけや露伴から受けた教育など、自ら「台所育ち」と称した半生を自筆資料とともにご紹介いたします。

◇第二章 作家として発つ

終戦後、露伴と一緒に娘・玉とともに市川市に移り住んだ文は、1947年にこの地で露伴を見送ります。露伴が亡くなる数ヶ月前から書き留めていた看病の記録「雑記」を発表すると、これが好評を得、作家としてデビューしました。本章では、露伴の人物像やデビュー初期の作品をご紹介いたします。

◆第三章 見て、聞いて、書く

周囲の勧めのままに執筆をしていた文は、1950年に断筆を宣言。その後、芸者置屋の住み込み女中として働き、この経験を基に発表した「流れる」で文壇に返り咲きます。以降、86歳で亡くなるまでに、随筆・小説・ルポルタージュなど、様々な分野で活躍。日本各地に取材に出かけ、「現場を歩き、自分で見て、聞いて、感じたこと」を原稿用紙に刻んでいきました。

本章では、旺盛な好奇心で書き続けた40年を超える作家活動に迫ります。

本展のポイント

- 自筆原稿・草稿24点、愛用品15点、書籍・雑誌20点ほか、創作資料やアルバム、幸田露伴資料など合計85点の資料を展示いたします。(会期中一部展示替えあり)
- 「ぬり箸 たけ箸」自筆原稿、捕鯨見学で撮影した写真のアルバムなど、計13点の初公開資料を展示いたします。
- 北海道から鹿児島まで訪ね歩いた「木」「崩れ」、過酷な労働現場で働く男性たちに密着したルポルタージュ、焼失した仏塔の再建など、老いるほど旺盛になっていった創作活動を辿ります。
- 19歳で亡くなった弟への哀惜を綴った小説「おとうと」。ドラマ、新派、映画など映像・舞台化され、その多くの脚本・脚色に市川市ゆかりの脚本家・水木洋子が携わりました。本展では、水木の自筆脚本原稿を展示いたします。

会期中のイベント

①映画上映会「おとうと」

(1960年大映、監督:市川崑、原作:幸田文、脚本:水木洋子)

日時:11月9日(土)13:00~14:40(1時間前開場)

会場:グリーンスタジオ(生涯学習センター内 2階)

定員:200名(専用フォームによる先着申込、当日自由席)

②担当学芸員によるギャラリートーク

日時:11月3日(日)、11月17日(日)、12月8日(日)

いずれも14時より30分程度

広報用貸出画像

企画展ポスター画像



「生誕 120 年記念 幸田文展 -千年の藤のように生きる-」

広報用画像貸出につきまして

市川市文学ミュージアム 担当: 益子

TEL:047-320-3334 FAX:047-320-3356

E-mail:bungaku-museum@city.ichikawa.lg.jp

(休館日:月曜日、月曜が祝日の場合は翌平日休館)

展覧会広報用画像をご利用希望の際には、下記貸出条件をご確認のうえ、E-mail もしくは TEL、FAX にてご連絡くださいますよう、お願い申し上げます。担当者より折り返しご連絡いたします。

【広報用画像貸出条件】

- ・画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください。
- ・画像データはご使用後必ず消去してください。
- ・著作権法を遵守し、問題が生じた場合には、申請者がそのすべての責任を負うこととなります。
- ・掲載紙を 1 部またはデータにてご提供ください。

雑誌名・番組名・WEB サイト名:

発売・放送予定日

貴社名

ご担当者名

ご住所

ご連絡先 TEL

FAX

E-mail

令和6年度市川市文学ミュージアム企画展
「幸田文展 -千年の藤のように生きる-」

【プレス向け内覧会】 日時 :令和6年10月25日(金)13:30~16:00

ご出席いただける場合は、10月23日(水)までにファックスまたはメールにて
ご連絡くださいますよう、お願い申し上げます。

ふりがな
ご芳名 :

ご所属 :

ご住所 :

TEL :

ご来館時間 (ご来館予定のお時間が決まっている場合はご記入ください。)

時 分頃

【返送先】



市川市文学ミュージアム
Ichikawa City Museum of Literature

〒272-0015

千葉県市川市鬼高1丁目1番4号

生涯学習センター2階

TEL:047-320-3334 FAX:047-320-3356

お問い合わせ 担当:益子 ゆらぎ

E-mail : bungaku-museum@city.ichikawa.lg.jp

K H D A Y A



幸 福 文 展

令和6年度 市川市文学ミュージアム企画展

会期 10月26日～12月22日

千年の藤の よう生きる

「見て、歩いて、感じた」経験を
作品として芽吹かせた文。

古いを糧とした生き方は、
長い年月をかけて大地に根を張り、
その上に美しい花を咲かせる藤のよう。

主催・市川市 / 協力・青木奈緒氏、世田谷文学館ほか

会場・市川市文学ミュージアム 企画展示室
開館時間…平日10時～19時30分／土日祝10時～18時（入館は閉館の30分前まで）
休館日…月曜日（11月4日は開館）、10月31日、11月5日、11月29日
観覧料…一般500円（400円）、65歳以上400円（300円）、
高大生250円（200円）中学生以下無料
※（ ）内は25名以上の団体料金

生誕120年記念／市制施行90周年記念事業



撮影・三木淳



幸田文文展

千年の藤のように生きる

会期
10月26日→12月22日



(上)「みそつかす」原稿
(下)『みそつかす』(1951年 岩波書店)



羽織、着物と帯

イベント情報

映画上映会「おとうと」

(1960年大映、監督：市川崑、出演：岸恵子、川口浩ほか)

◎日時：11月9日(土) 13時00分～14時40分予定(1時間前開場)

◎場所：グリーンスタジオ(文学ミュージアム内) ◎定員：200名

◎申し込み：専用フォームにて、9月25日(水) 10時より先着申込開始、当日自由席

担当学芸員によるギャラリートーク

◎日時：11月3日(日)、11月17日(日)、12月8日(日) いずれも14時より30分程度



文学ミュージアム
X (旧Twitter)



市川市文学ミュージアム
Ichikawa City Museum of Literature



交通
アクセス

●JR総武線：本八幡駅・下総中山駅から徒歩15分 ●都営新宿線：本八幡駅から徒歩20分 ●京成線：鬼越駅から徒歩10分
●車：京葉道路 京葉市川インターチェンジ下車5分 ※駐車場はあります、できるだけ公共交通機関をご利用ください
※本八幡駅からコルトランバス(無料)もご利用いただけます

●問い合わせ：〒272-0015 千葉県市川市鬼高1丁目1番4号 市川市生涯学習センター(中央図書館)2階

TEL 047-320-3334 FAX 047-320-3356 https://www.city.ichikawa.lg.jp/cu06/litera.html X (旧Twitter) @bungaku_museum

※開催中、一部展示替えを行います。また、展示・イベント内容に変更が生じた場合は公式Webサイト、Xにてお知らせいたします。

